

令和6年9月15日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す 住 み よ い げん き な みどり 緑 の 郷 さと おお くさ の 大 草 野

学校前花壇の除草作業 8月31日(日)8:00～ 環境整備部会
ついでに となりにある芋畑の雑草も撃退しました！！



スッキリしましたね！暑い中、皆さんお疲れ様でした！

7月6日(日)に日日草を植えました。しかし、カラカラ天気のとに続いた雨のために、それまでの渴きを一気に取り戻し、喉を潤すかのように水分を吸収した雑草が、猛烈な勢いで成長していました。すでに8月のお盆前には、日日草の花がどこにあるのかさえ分からない状態になっていました。可能なら、登校日前に除草を済ませていたらよかったかもしれませんが、環境整備部会の皆さんが、8月最後の日曜日に集まって作業していただくことになりました。

今年の夏は、「涼しい風が吹いた！」とは一度も感じなかった気がします。8月最後の日だというのに、この日も暑さは同じです。いつまにか朝の挨拶が「今日もぬっかねーっ！」になってしま

いました。暑いせいか、今日の集まりは花植えのときより少し少なかったようですが、気合を入れて作業開始です。途中で休憩を入れて、1時間半くらいで終了しました。ビフォアアフターの写真をご覧ください！
どうですか、毛を刈り取られた羊のようにスッキリしたと思いませんか？ 雑草に栄養分を吸い取られたのか、花があまり育っていません。花壇に植えた1週間後に、研修センター前のプランターにも植えましたが、水を欠かさないだけで、雑草があるのとないのとは花の育ち方が大きく違って勉強になりました。
環境整備部会の皆さんと並行して、香田会長、馬場副会長と事務局で、法面や芋畑の間の雑草の刈り取りも行いました。



作業開始！

今年は、雑草の成長がとても速くて、土日があると、毎回草刈り機を担いでどこかへ出かけています。

9月に入っても気温は高止まりしています、皆さん、気を引き締めてこの暑さを乗り切りましょう！実

りの秋がもうそこまで来ています。

環境整備部会の皆さん、お疲れ様でした！



ビフォー



アフター

令和7年度 益世会の塩田川河川保全作業

「総勢 90 人 益世会は、大草野小児童のために頑張っています！」

草木伐採8月24日(日) 6:00～・焼却作業: 8月30日(土) 9:00～

益世会恒例の草木伐採作業は、8月24日(日)に行なわれ、そして、焼却作業は30日(土)に行なわれました。益世会の役員会の中では、近ごろ県内で起こった熱中症の死亡事故の事例のこともあり、実施時期を再検討する方がいいのではないか？という意見が趨勢のようになってきました。

確かに、「何故一番暑い時期に？」という思いはありましたが、他の諸条件があつてこの時期になっていたのだらうと思っていましたが……。とにかく、善処するために試行錯誤することは大変いいことだらうと思います。

作業区間の中で葛(カズラ)が繁っているところ(写真左)は手間がかかり、時間も要します。しっかり休憩をとりながらの作業です。作業自体は、全区が協力し合つて、6:

15から3時間程度で終了しました。終了後、区長が集合しての話の中でも、次年度へ向けての検討課題が出されていました。

さて、30日の焼却作業ですが、気温37度の予報が出される中で

行うことになり、村島会長は、重ねての注意喚起をされていました。9時から始めて、ちょうどお昼の時報に合わせたように、誰一人の体調不良者も無く終了することができました。毎年いただくかき氷の差し入れに、皆さんが「生き返った！」と言われていました。除草も焼却も、無事に終わりました。村島会長は、自身最初のメインの行事を終えて、会員の皆さんの協力に、心から御礼を述べられておられ、かつ、ホツとされた様子でした。皆さん、お疲れ様でした！

かかし作り日程のお知らせ

◎総務・広報部会: 9月28日(日)8時から ◎公民館活動部会: 9月21日(日)9時から

◎青少年育成部会: 9月10日現在未定

◎健康福祉部会: 9月27日(土)13:30から

◎環境整備部会: 9月28日(日)10:30から(新幹線駅ボランティア清掃後)

◎地域づくり部会: 9月23日(火: 秋分の日)9時から

9月2日朝、外に出てみて、今年の夏になつて初めて風が「涼しい！」と感じました。久しぶりの懐かしい感触です。

地球温暖化に伴う異常気象が言われ出して随分経ちます。地球温暖化は、十八世紀後半の産業革命を契機に加速したと言われ、そのことが世界中で取沙汰されるようになったのは、およそ百年後の1980年代になつてからだと言われています。

私のような70代は、今年のような暑い夏を今後も経験するのは、人生100年と言つてもあと30年弱。じや、私たちの子孫は、こんな異常気象にこれから一体どうやつて対応していくのか？「そんなこと知つたこつちやない！」と、毎日酒を飲みながら知らん顔をしていいのか？

長いがい間の人が残してきた結果の堆積で今があることを考えれば、知らん顔ばかりもしてられない、と思ひはするが、それじや実際に何をすればいいのか、が、ピンと来ない氣もする。

私の孫たちが、毎日40度超えの気温の中で夏を過ごすのかと思えば、やつぱり可哀そうだ。「そんなの、冷房の中で過ごせばいいじゃない！」と言つてもしれないが、その冷房のエネルギーは？とか、そんな暮らしぶりなら、人間の身体機能は退化してしまふ、とか考へていると、あと千年もしたら人類はいなくなり、AIロボットしか暮らしていないのでは、と悲しい未来予想図を描いている自分がいる。

《編集後記》

△この先どうなるのか？△